

## 東洋英和女学院設立申請書より

②

栗原正己

次に、学校長教員品行学力及履歴として、ミス、カートメルと鶴飼ノブ両教員の名が申請されています。それによりますと

マーサ・ジュリア・カートメル 明治十七年九月三十八年 北亜米利加カナダトロント官立女子師範学校ニ於テ算術普通学科 文学 仏蘭西語学及音楽ノ諸学科ヲ修業シ 西暦紀元一八六五年ヨリ一八八二年マデ十七年間同国ハミルトン官立女学校教員及校長ヲ奉職シ一八八二年本邦ニ来リ爾来東京築地明石町四番ニ住居シ日本語ヲ研究シ亦冢塾ヲ設立シテ英学ヲ教授罷在候 賞罰ヲ受ケ訴訟ニ関係無御座候

教員 鶴飼ノブ 明治十七年九月十九年四ヶ月 明治十四年九月東京女子師範学校ニ入学 同十七年七月廿九日卒業 賞罰ヲ受ケ訴訟ニ関係無御座候

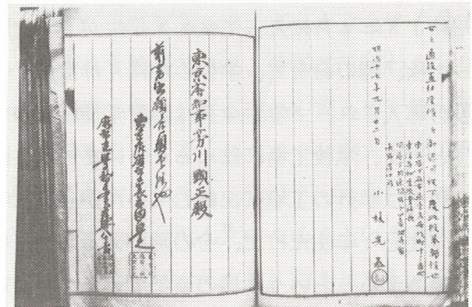
### 一、学校設立者履歴

長野県士族 小林光泰

明治十七年九月廿六年三ヶ月 明治八年一月長野県師範学校へ入学 同九年九月小学師範学科卒業 同年十一月ヨリ同十一年一月迄長野県筑摩郡公立岡田学校五等訓導ヲ奉職 同十一年四月ヨリ同十三年六月迄山梨県西山梨郡甲府第一学校五等訓導ヲ奉職 同十三年六月ヨリ同十七年四月迄東京築地明石町四番魚須亜米利加カナダ人シー・エス・イービーニ就キ英学兼神学科修業 職業基督教宣教師 賞罰ヲ受ケ訴訟等ニ関係無御座候

以下、敷地建物ノ図面別紙ノ通り

授業料 生徒宅名宅ケ月金五拾銭



最後に 経費収入支出が記されています。それによると

金九百貳拾円	俵入但宅ケ年
内訳 金五拾円	東 修
金三百円	授 業 料
金五百七拾円	社員寄附金
金九百貳拾円	支出但宅ケ年
内訳 金七百貳拾円	教 員 俸 給
但外国教師俸給宅ケ月金貳拾円ノ者一名	
拾五円ノ者一名 本邦教師俸給一ケ月	
拾五円ノ者一名同一ケ月拾円ノ者一名	
金貳百円	諸 雑 費

以上の項目及び内容が、毛筆で記され、28ページから成る書類となっておりました。そして最後に右之通設置仕度候ニ付御認可被下度此段奉願候也

東京府下麻布区東鳥居坂町十三番地

東洋英和学校会社長

同府下同区同町十四番地寄留

長野県士族 小林 光泰

明治十七年九月廿二日

東京府知事 芳川 顕正殿

以上が、本学院創立に当っての「私立学校設立願」の大意です。

## 第二次世界大戦下の学校

昭和19年から20年冬にかけて (I)

### 学校工場の思い出

昭和18年4月に入って来た1年生が2年生になった秋、国の命令で、学校の中に「沖電気」の施設が導入され、2年生全員は勤労学徒動員の徴用工として、学校工場に勤めることになった。既に上級生は学外の工場に出動していたから、校内は2年生と1年生だけで、“その時の来る迄一生懸命に勉強する”という待機の姿勢でいた。いよいよ今日から非常態勢に入るという朝、軍や工場関係の偉そうな人々の前で、「結成式」をすることになり、2年生を代表して1組の高山京子さんが決意文を朗読した。それは国語担任の私が若いなりに工夫をこらした楠正成ばりの文語文で、日の丸の鉢巻をした少女が甘い声で読み上げると、院長代行の安井てつ先生は、「けなげだわね」と目をぬぐわれた。「娘が大役を果せるかどうか心配で」と美しいモンペ姿の高山夫人が、背後の席に坐っていたのが印象的である。日本がこの先き勝つのやら敗けるのやら一向に判らない私にとっては、芝居がかった結成式だとか、よそゆきのモンペとか、目の前のことに専ら関心があった。

学校工場では二つの仕事をした。3階では無線電信機の箱の中に電線をハンダ付けする仕事をしていて、4年生の一部が2年生の指導に何人か残り、40年輩の男の徴用工も数人配属されていた。この小父さん達は浅草の辺の時計屋とか金物屋ということであった。

2階では、2年生全員で細い電線の糸巻きを作るコイル巻の作業をしていて、小高さんという、目のしよぼしよぼした17・8才の少年が指導員であった。みるからに病身そうなその少年は、いつも目やにをため、水をすゝりつつ、忠義顔に

### 岩原さかえ(旧 比屋根)

生徒達の悪口を告げによく職員室にやって来た。貧しい家に生れ、何一つよい思い出を持たないらしい彼に、生徒達の言うことなすことが気に入らず、指導員として彼なりの煩悶が常にあったのだ。

早く動員されたいと願っていた勉強嫌いの少女達は、すぐに自分達の錯覚に気付いた。何かとんでもなく面白いことの始まるような威勢のよい結成式とはうらはらに、暗くて退屈な、何の進歩も向上もない同じことの繰り返しの日々が、厳しい寒さと共にやって来たのだ。

毎朝屋上で班毎に整列し、国民儀礼をする。先ず「宮城に対し奉り最敬礼」をし、長野先生と工場長の簡単な訓話を聞き、国民体操の後に、班長の「職場前進」という号令一下で各職場に入る。西に遠く雪の富士山を眺め、互の吐く息が白く凍るような朝、一同は次第に悪化の一路を辿ってゆく戦局の悲報を聞かされ、大人も子供も、疑いと不安の入り混った困惑の表情で、ハンダ付けとコイル巻きの一日を開始するのだった。暖房のない作業場で生徒達は霜焼けの手をこすりながら、明けても暮れてもコイル巻きに余念がなかったが、ハンダ付けの組では、部品が次第に欠乏し、仕事を何度も中断しなければならず、時々軍刀をがちやつかせて作業状態を視察に来る軍人の前では、「仕事をしているふりをしろ」と工場主任から命令され、「そんな演技をするのはいやだ。」という生徒をなだめすかしつつ、こんなウソのつきっこをして一体何になるのだろうか先生達はいぶかった。

12月に入ると薄気味悪いサイレンの低い持続音が警戒警報の発令を知らせ、やがてそれが漸続

東洋永和女学校の教職員（昭和20年）



前列左から

長野現名誉院長、岩原（筆者）、岡本、平岩（旧川上）、矢川、村井（旧小林）、光明現院長  
中列 十川（山田）、清水、渡井（佐々木）  
後列 富士、中木（岡田）、上田（倉長）、川島、松島（敬称略）

音の空襲警報になると、生徒達はクロークルームに避難して、ひざに面を伏せながら、じっとB 29の近づく音に耳をすませた。昼近く雪が降り出した午後の空襲で家焼かれた山本良子さんは、2年生の中で最初の罹災者となった。

昭和19年の大晦日は除夜の鐘の代わりに空襲警報が鳴り響き、神田の辺に落ちた焼夷弾で燃え上がった火が、初日の出る頃に鎮まるという荒れ模様だが、それでも愚かな私達は案外落ち着いていて、その中どうにかなるだろうと、前日に続く同じ生活をしていて。綿の入った厚い防空頭巾をかぶって、貯金通帳や国債や三角巾や炊き米や日記帳の入った救急袋をはずかいに肩にかけて学校に出かけるのだ。一週に一度ある授業の他、工場から生徒に配給されるお米を量ったり、報償金を封筒に入れたり等、雑用が次々にあった。3月に入った日、少年工の小高さんが、深刻な顔をして職員室に入って来て、「生徒達が近頃非常に態度が悪いから注意してほしい」という。よく聞くと、「軍の資材を使って、非常時にあるまじき人形を作っている。」というのだ。そこでどれどれと階段を上って行って見ると、床に落ちている赤や黄や緑

の電線の切り端しをハンダでつないだだけの、小さなお雛様らしいものが、内裏様や三人官女や五人ばやし迄揃えて、どこから持って来たのかやさしい桃の花の枝を前に、こちよこちよと並んでいるのだ。私は言葉もなくじっと立ちすくんで、こんな哀れな雛祭りをも、非国民呼ばわりしなければ気のすまない少年工の心の貧しさを憐んだ。

それから間もなく3月10日の大空襲である。浅草の時計屋さんも金物屋さんもそれっきり姿を現わさず、多分死んだのだろうという噂だった。それ以後は東京全体が急に浮き足立ち、どこかに疎開してゆく荷馬車や大八車の右往左往する騒然とした町になった。

ろくに勉強もしないで2年生は3年に進級し、相変わらず同じ作業を続けようとするのだが、4月から5月にかけての大空襲の度に罹災者が増え、疎開を告げてあわただしく去ってゆく者が続出する頃には、学校工場も開店休業の状態で、5月に入って二度目の大空襲で沖電気の三田の本社が焼失し、世田谷から渋谷を経て、青山、麻布の辺が一面の焼野が原となるに及び遂に学校工場は閉鎖となった。5月25日の大空襲の翌朝、井の頭線（当時帝都線と称す）の「池の上」の自宅から焼野を歩き通して鳥居坂迄出勤した時の驚きを忘れることができない。家という家は燃え尽きていたが、電柱と土蔵だけはまだ盛んに火を吹いていた。青山通りの市電の車庫から宮益坂にかけて白骨化した電車が何台もつながっていたこと、神宮前路傍に死人の山のあったこと、六本木の光景が余り変わったので英和に行く道を迷ってしまったことなど。

その空襲で受け持ちの生徒だった沢池好江さんが祖母さんと一緒に青山学院の近くの防火水槽の中で亡くなられた。

（つづく）

（岩原先生は昭和17年から27年までご在職）

## 次の資料が集まりました

### 小学部資料

文芸会（劇一桃太郎、昭和3年）

クリスマス聖劇（昭和3年）

卒業記念写真（昭和4年）

鳥居坂教会の前で

校門

修学旅行（関西）

水泳訓練（野尻湖）

五年生の国語の時間

お友達に髪をゆっていただく

生徒達のお道具入れ

農家のいねかりのお手伝い

楽しい夕食のひとつき

出流山分教場の門（学童疎開）

一日のはじまり（学童疎開）

待ちこがれたおかあさまの面会日（学童疎開）

入学式（昭和19年）

### 中高部資料

東洋英和女学校校舎写真

モンペ着用制服姿写真

国防服制作時の型見本

防火用水

東京都東洋英和女学校特設防護団腕章

罹災証明書（倉長 朝氏）

沖電気及安藤電気作業 報国隊会計領収書

昭和16年東洋英和女学校附近の図

昭和18年10月28日體鍊大会順序

戦時中・敗戦直後の学校については、思い出の多い方が大勢いらっしゃると思います。岩原先生の女学校の記事に続いて、小学校の学童疎開・師範科のようすを連載の予定です。資料をお持ちの方は、ぜひ委員にお知らせ下さい。

史料室委員は、幼稚園1名、小・中・高短大各部に2名づついます。どの部でもお気軽にご連絡下さい。

---

### あ と が き

史料室だよりも第三号となりました。来年度からは年四回発行の予定です。皆様方の御協力を感謝し、百年に向かって進みたいと思います。

（短大・芝原・中沢記）